

平成29年度事業報告について

I 公益目的事業の概況に関する事項

公益目的事業として下記の7つの事業を実施しました。

1. 保健啓発事業
2. 調査研究事業
3. 保健活動従事者研修事業
4. がん患者保健支援事業
5. 健診事業
6. 健診結果フォロー事業
7. 関係団体への施設貸与事業

1. 保健啓発事業

県、市町や佐賀県医師会、佐賀県放射線技師会、がん患者会等の各種団体と連携し、当財団が保有している専門的な知見（疾病、予防医学、医療、保健向上のための課題等）や情報（疾病罹患の状況や、健診の方法や効果、県民自らできる健康づくりの取組み等）を活用して、健康づくりに関する正しい知識と予防思想の普及啓発に取り組みました。

(1) 市町保健施策等への支援

(内容)

県下全市町の健康づくり担当者を集めた会議を開催し、健診の普及や精度管理、有効な健診を実施するための意見交換を行うとともに、当財団が実施した健診結果に基づく集計・分析の結果や健診の課題等を紹介し、市町の保健事業の推進、当財団と市町との協力関係の構築を図りました。

また、がん検診率の向上に向けて、がん対策推進基本計画（国・県策定、H20年度～）が推進される中、市町ごとにごがん検診結果の集計、がん・がん疑い受診者の追跡調査の結果、分析を各市町に提供し、市町の保健政策の推進に寄与しました。

(対象者)

市町の保健業務担当者等

○第1回

日時：平成29年10月6日（金） 14時～15時

会場：旧・佐賀県総合保健会館 会議室

参加者：県下市町担当者 約30名

内容：事業統合に伴う健診事業の実施方法、健診料金等に関する説明及び意見交換

○第2回

日時：平成30年3月1日（月）

会場：佐賀県健康づくり財団 4階 城内記念ホール

参加者：県下市町担当者 約30名

内容：健診の精度管理、実施方法、計画等に関する報告及び意見交換

(2) 講演会等を通じた啓発

(内容)

健康診断受診率の低迷が続く中、県民の健康づくりへの関心を高める必要から、県内で開催される講演会等に、当財団職員等を積極的に派遣するとともに、平成24年度からは、一般県民向けの独自の健康づくり講演会も開催し、啓発活動を充実してきました。

①2017がん征圧県民のつどい

日時：平成29年9月23日（土・祝）10時～12時

場所：佐賀市アバンセ

参加者：一般県民 約250人

応募方法：市町広報への掲載、案内チラシ配布、テレビ・ラジオの無料告知等

内容

講演：「今だからお話しできる『がん』の話」

講師：俳優・村野武範氏

チアダンス公演 かわそえスポーツクラブの皆さん

ホワイエ事業「見て、聞いて、触ってわかるがんコーナー」

血管年齢測定・生活習慣病情報コーナー、がん予防のための食事の紹介、がんに関する本の紹介と貸出、医療用ウイック相談会、がん相談ダイヤル、がん患者団体紹介、レントゲン、細胞診画像展示、乳がん視触診モデルの照会 ほか

主催：当財団

後援：日本対がん協会、佐賀県、佐賀県市長会、佐賀県町村会、佐賀県女性と生涯学習財団、佐賀県医師会、佐賀県歯科医師会、佐賀県薬剤師会、佐賀県看護協会、佐賀県栄養士会、佐賀県商工

会議所連合会、佐賀県商工会連合会、佐賀県地域婦人連絡協議会、九州国際重粒子線がん治療センター、協会けんぽ佐賀支部、佐賀県国民健康保険団体連合会、健康保険組合連合会佐賀県連合会、佐賀大学医学部附属病院、佐賀県医療センター好生館、唐津赤十字病院、嬉野医療センター、NPO法人クレブスサポート、サガテレビ、NHK佐賀放送局、NBCラジオ佐賀、エフエム佐賀、えびすFM、ぶんぶんテレビ、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞西部本社、佐賀新聞社、西日本新聞社

(3) 各種イベントと連携した啓発

(内容)

民間のイベント事業と連携し、当財団のブースを設けたり、検診車の見学会を行ったりして、県民の保健意識の高揚を図りました。

(対象)

イベント会場に来場した一般県民

①乳がん予防母の日街頭キャンペーン（ピンクリボンキャンペーン）

日時：平成29年5月14（日）10時～17時

会場：ゆめタウン武雄（武雄市）、ゆめタウン佐賀（佐賀市）

エレナ伊万里店（伊万里市）、フレスポ鳥栖（鳥栖市）

イオン唐津ショッピングセンター（唐津市）

主催：佐賀県

内容：乳がんに関する知識や、予防・早期発見の必要性などを啓発するチラシの配布活動

②さが子育て応援フェスタ

日時：平成29年9月9日（土）・10日（日）10時～16時

会場：市村記念体育館

主催：サガテレビ

内容：乳がん検診車の車内見学（技師による検診方法・X線撮影画像の説明パネル掲示、自己触診モデルの体験）を実施し、子育て世代の女性を対象に、乳がん検診の必要性を訴えました。

③2017リレー・フォー・ライフ・ジャパン佐賀

日時：平成29年9月23日（土・祝）12時～・24日（日）12時

会場：佐賀市どんどんの森

主催：リレー・フォー・ライフ・ジャパン佐賀実行委員会

内容：24時間のリレーウォークイベント会場にブースを設け、佐賀県、がん患者団体等と協力し、がんに関する情報提供を行いました。

④ばぶばぶフェスタ2017

日時：平成29年10月8日（日）10時～16時

会場：どんどんの森広場、アバンセ

主催：佐賀県・佐賀新聞社

参加内容：会場内に専用ブースを設け、特に来場が多い女性を対象にパネルの掲示、啓発資料の配布、保健師による乳房触診モデルを使った自己触診指導などを実施

⑤乳がん予防秋の街頭キャンペーン（ピンクリボンキャンペーン）

日時：平成29年10月1日（日）10時～17時

会場：ゆめタウン武雄（武雄市）、ゆめタウン佐賀（佐賀市）

エレナ伊万里店（伊万里市）、フレスポ鳥栖（鳥栖市）

イオン唐津ショッピングセンター（唐津市）

主催：佐賀県

参加内容：チラシの配布活動

⑥佐賀県健康フェスタ2017

日時：平成29年10月21日（土）12時30分～16時

会場：佐賀勤労者総合福祉センター メートプラザ佐賀

主催：佐賀県

参加内容：会場内に乳がんに関するブースを設け、パネルや乳房触診モデルを使った自己触診指導などや、乳がん検診車の車内見学、技師による検診方法・撮影画像の説明及び模擬体験を実施

(4) インターネットや広報誌を通じた広報・啓発

当財団のホームページ、広報誌「さが健財だよりすこやか」により、生活習慣病等についての知識、健康づくりの実践のすすめなどの情報を提供しました。

①さが健財だより「すこやか」の発行

発行回数：年間1回（創刊号）

送付先：県、市町、医療機関、薬局、事業所等

発行部数：創刊号6,000部

サイズ・ページ数：A4サイズ12ページ

(5) 公益財団法人結核予防会、公益財団法人日本対がん協会と連携した広報・啓発

①結核予防週間及び複十字シール募金運動

結核予防週間（9月24日～30日）には、協会建物に結核予防等を呼び掛ける懸垂幕を掲示しました。

また、企業等に対する募金活動、健康を守る佐賀県婦人の会の協力を通じた募金活動を実施し、その募金は公益財団法人結核予防会に集約して、結核に関する医療研究や広報活動等に活用されています。

○平成29年度募金実績額：1,088,268円

健康を守る佐賀県婦人の会が各地域で実施した募金活動、事業所等を対象にした郵便による募金活動等を行いました。

②がん征圧月間及び募金活動

9月の「がん征圧月間」に、事務所建物にがん征圧を呼びかける懸垂幕の掲示、新聞広告を実施するとともに、市町や公共施設、医療機関、報道機関等にごがん征圧を訴えるポスターを送付して啓発に努めました。

また、啓発活動と合わせて、県や保健福祉事務所、医師会、事業所等の協力の下、がん征圧のための寄付金（募金）を集め、がん電話相談ダイヤル事業の財源の一部とするなど、がん対策に活用しました。

○啓発事業の実績

・新聞広告 がん征圧月間（大腸がん）9月27日（水）：佐賀新聞

・ポスター配布先

県、保健所、市町、国公立病院、県医師会会員、
県歯科医師会会員、県薬剤師会会員、県婦人連絡協議会、
報道機関等

・ポスター配布枚数 1,000枚

○平成29年度募金実績額：553,000円

・保健関連刊行物等による情報提供

結核予防会、日本対がん協会が、全国の支部を通じて収集した健診情報や保健に関する新たな情報を掲載した定期情報誌「複十字」（結核予防会毎月発行、無料）、「対がん協会報」（日本対がん協会隔月発行、有償購入）を、行政機関や公共施設、当財団が健診を実施している事業所等、約200カ所に送付して情報提供を行いました。

〔事業実施形態・財源〕

- ・ (1) ～ (4) は、健診・検査事業収益を財源としています。
- ・ (5) は、結核予防会本部からの交付金（受取民間補助金）、がん征圧募金（募金収益）及び当財団の健診・検査事業収益を財源としています。

2. 調査研究事業

健診・検査結果、追跡調査結果等のデータを集計分析し、健診・検査事業の精度管理、対外的な情報提供に活用しました。

(1) 事業年報等の報告書による情報提供

平成27年度に当財団が実施した全ての健診・検査のデータの集計・分析結果や研究活動成果を事業年報として取りまとめ、医療関係機関等に配布しました。

○内容

- ・健診・検査事業における受診者数、受診率、精密検査率、疾病発見数（追跡調査結果）及びその経年変化状況など
- ・研究事業の発表成果等

○配布先

県、保健所、市町、健康保険者、県・地区医師会、健診機関、佐賀大学医学部、医療機関、報道機関等

○配布数 約150部

(2) 学会・学術集会等への参画

がん検診の精度の向上等を図るため、がん検診の際のX線撮影や細胞診などに関する学会等に参画しました。

- ・ 5月7日 平成29年度産業保健実践講習会
- ・ 5月28日～6月1日 第58回日本臨床細胞学会総会（春期大会）
- ・ 6月4日 第132回マンモグラフィ技術更新講習会
- ・ 7月15日～16日 第33回日本臨床細胞学会九州連合会学会
- ・ 8月19日～20日 第73回細胞検査士教育セミナー
- ・ 8月26日～27日 第15回臨床検査技師スキルアップセミナー講習会
- ・ 9月9日～10日 第74回細胞検査士教育セミナー
- ・ 9月21日～23日 日本臨床検査自動化学会第49回大会
- ・ 9月30日 第47回日本消化器がん検診学会九州地方会
- ・ 10月7日 第2回胃がん検診専門技師研修会

- ・ 10月12日～15日 第25回日本消化器関連学会週間学会
- ・ 10月14日～15日 第58回日本肺癌学会学術集会
- ・ 10月21日～22日 平成29年度（第52回）日臨技九州支部医学検査学会
- ・ 11月18日～19日 第56回日本臨床細胞学会（秋期大会）
- ・ 12月20日～22日 平成29年度結核予防会胸部検診対策委員胸部画像精度管理研究会
- ・ 12月21日・22日 平成29年度胸部画像精度管理研究会
- ・ 2月23日～24日 平成29年度第47回マンモグラフィ読影会
- ・ 2月24日 第143回マンモグラフィ更新技術講習会
- ・ 3月2日 日本医師会臨床検査精度管理調査報告会
- ・ 3月3日 日本臨床検査技師会精度管理調査報告会
- ・ 3月7日～9日 平成29年度診療放射線技師研修会

(3) がん検診精度管理事業

健康診断で実施したがん検診の診断結果、医療機関に対する追跡調査で把握した最終診断結果等を検証し、がん検診の精度管理に努めました。

①肺がん 症例検討及び検診技術の評価検討

日時：（第1回）平成30年2月12日～平成30年2月23日

（第2回）平成30年3月12日（月）

会場：佐賀県健康づくり財団 1階読影室

対象：医師

参加者：37人

内容[講師]

（第1回）・肺がん検診症例検討及びフィルムの評価

（第2回）・肺がん検診症例検討及びフィルムの評価

・肺がん検診精度管理指標

講師 佐賀大学医学部放射線科 教授 入江裕之

講師 佐賀県健康づくり財団医師 甲佐和宏

②乳がん 症例検討及び検診技術の評価検討

日時：（第1回）平成30年2月13日（火）～平成30年3月8日（木）

（第2回）平成30年3月9日（金）

会場：佐賀県健康づくり財団 1階読影室

対象：医師

参加者：43人

内容[講師]

(第1回) 平成27年度の乳がん検診で発見された20症例の読影

(第2回) 平成27年度の乳がん検診で発見された20症例の検討
及び健診技術の評価検討会

講師 今村病院医師 岸川圭嗣 先生

(4) 対策型胃内視鏡検診運営委員会事業（県委託事業）

(内容)

がん検診に関する国の指針が改正され、平成28年4月1日から施行されたのに伴い、胃がん検診の方法として新たに胃内視鏡検診が導入されました。

当財団は、健診情報の集計分析に必要な総合的情報システムを有し、データ管理のノウハウも有しているところから、平成29年度から検診データの管理等の業務を県（実施主体は市町であるが、市町が県に事務を委任）から受託し、県内市町で実施される胃内視鏡検診データを一元的に集計・分析することによって、胃内視鏡検診にかかる精度管理の維持・向上につなげています。

また、胃内視鏡検査の精度を確保するために、運営委員会において検査医の認定、検診実施機関の指定を行うこととされており、その事務を実施しました。

*対策型胃内視鏡検査について

市町が実施する検診のうち、がん検診については、医学的な根拠に基づき、効果的な実施方法に関する指針を国が作成しています。

胃がん検診については、従来は、胃部エックス線検査のみを検診方法と定めていましたが、平成28年度から、受診者の選択によって「胃内視鏡検査」の方法によることができるように改正されました。

新たに胃内視鏡検査を住民健診の方法として実施するためには、検診医師・設備などの検診体制を確保するとともに、検診精度を確保するための方策を講じることが重要となっています。

このため、検診の実施主体である市町が胃がん検診を適切に実施するために、専門家が関与する運営委員会を設けて、検診の実施体制の確保や精度管理等の方針を決定することとされました。

県内市町は、運営委員会事務を佐賀県に委任し、広域的な運営委員会が設置されることとなり、当財団が、運営委員会に関する事務を受託することとなりました。

運営委員会の主な事務は、以下のとおりです。

- ①胃がん検診内視鏡検査の運営方針（健診の実施方法、検査医の要件決定・認定、検診実施機関の指定）
 - ②読影委員会の管理
 - ③検査医及びメディカルスタッフの胃がん検診内視鏡検査研修会の開催
 - ④胃がん検診内視鏡検査偶発症対策、胃がん検診内視鏡検査健診データベースの管理
 - ⑤その他、胃がん検診内視鏡検査の精度管理に必要な事項の検討・評価
- なお、運営委員会は、胃がん検診の専門医、地域の検診医等で構成されます。

対策型胃内視鏡検診の開始年度であり、検査医認定基準、健診実施機関指定基準の決定、検査医の認定、健診実施機関の指定のための事務を執行し、運営委員会を開催しました。

また、胃内視鏡検診実施結果に関するデータベースの構築を開始しました。

・運営委員会の開催

○第1回運営委員会

日時：平成29年5月16日（火）19時～

場所：旧・総合保健協会会館 会議室

○第2回運営委員会

日時：平成30年2月1日（木）19時～

場所：佐賀県健康づくり財団3階研修室

・健診実施機関の登録件数 17施設

（平成29年度実施地域は小城・多久、西松浦地区のみ）

(5) 臨床検査精度管理事業

佐賀県医師会では旧・成人病予防センターを実施主体として、昭和63年度から県内医療機関の臨床検査の精度向上を目的にこの事業を実施してきました。今年度からは県医師会と当財団が共催で実施しました。

①佐賀県医師会臨床検査精度管理調査

調査期間：平成29年10月18日（水）～31日（火）

参加施設：調査対象施設 53施設 一般参加医療機関 115施設

合計168施設

②佐賀県医師会臨床検査精度管理調査報告会

日時：平成30年2月24日（土）15時30分～17時30分

場所：佐賀市・マリトピア3階ブライhtonコート

内容：・臨床検査精度管理調査の解析報告・総論報告・情報提供
・特別講演「救急現場における検査値の重要性」

講師：佐賀大学医学部附属病院 高度救命救急センター
センター長 阪本 雄一郎 先生

参加者数：119名（医師、臨床検査技師他）

〔事業実施形態・財源〕

- ・(1)(2)(5)は財団独自の事業で、健診・検査事業収益を財源にしています。
- ・(3)(4)は佐賀県からの委託事業であり、受託収益を財源にしています。

3. 保健活動従事者研修事業

健診・検査や特定保健指導等の業務に従事する医療資格者のための研修等を実施し、健診等に関する知識・技術の向上を図りました。

(1) 生活習慣病検診従事者講習会（県委託事業）

①胃がん検診従事者講習会

期日：平成30年1月19日（金）

会場：ホテルニューオータニ佐賀

対象：医師

参加者：112人

内容〔講師〕

一般演題

座長：佐賀県医療センター好生館 消化器内科 緒方伸一 先生

「胃内視鏡検査の基本」(VTR)

佐賀大学医学部 消化器内科 岡本憲洋 先生

特別講演

座長：佐賀県胃癌・大腸癌健診医会 会長 藤本一真 先生

「炎症性腸疾患の最新の臨床的話題を考える」

慶應義塾大学医学部 内科学（消化器）

教授 金井隆典 先生

②肺がん検診従事者講習会

期日：平成30年1月11日（木）

会場：ホテルマリーターレ創世

対象：医師

参加者：86人

内容[講師]

一般演題

座長：佐賀大学血液・呼吸器・腫瘍内科 高橋浩一郎 先生

○佐賀県肺がん対策医会派遣報告

(1) 第32回日本肺癌学会ワークショップ

佐賀大学血液・呼吸器・腫瘍内科 中島千穂 先生

(2) 第58回日本肺癌学会学術集会

佐賀県医療センター好生館呼吸器外科 宮本詩子 先生

○佐賀大学で経験した症例報告

(1) 再々検査にて T790M 陽性を確認し得た EGFR 遺伝子陽性肺がんの1例

佐賀大学血液・呼吸器・腫瘍内科 平川治樹 先生

(2) 当院における ROSI 陽性肺がんの2例

佐賀大学血液・呼吸器・腫瘍内科 小楠真典 先生

特別講演

座長：佐賀大学血液・呼吸器・腫瘍内科 荒金尚子 先生

演題：『難治性嚔下性肺炎に対する外科的新戦略』

演者：国際慰労福祉大学教授/福岡山王病院音声・嚔下センター
部長 梅崎俊郎 先生

③子宮（頸）がん検診従事者講習会

期日：平成30年2月7日（水）

会場：佐賀大学医学部臨床大講堂

対象：医師、臨床検査技師（細胞検査士）

参加者：84人

[教育講演]

- ・日常検査における子宮頸部LBC法の運用－良い点と注意すべき点－

臨床病態医学研究所 総括部長 技師 関本 哉恵

[特別講演]

- ・尿細胞診のこれから

古賀病院 2 1 泌尿器科 部長 医師 徳田 雄治

[一般演題]

- ・セミノーマとの鑑別が困難であった精巣原発悪性リンパ腫の 1 例
佐賀大学医学部附属病院病理部 技師 北村 捷

- ・髄液中に出現した退形成性髄膜腫の 1 例
佐賀大学医学部附属病院病理部 技師 檜崎 さやか

- ・肺多形癌の 2 例
唐津赤十字病院検査技術課 技師 井上 慎介

- ・破骨型多核巨細胞を伴う退形成癌の 1 例
(公財) 佐賀県総合保健協会 技師 中村 清子

(2) 佐賀保健指導支援ステーション事業 (一部県委託事業)

①基礎研修コース

特定保健指導業務従事者が受講すべき、厚生労働省のガイドラインに沿った研修

期日:平成29年10月22日(日)・29日(日) 11月12日(日)

会場:旧・総合保健協会会館 会議室

研修修了者:33名

内容[講師]

生活習慣病対策と標準的な健診・保健指導プログラム

講師 佐賀県健康増進課係長 友清雅子

標準的な健診・保健指導プログラムの実際

講師 佐賀県国民健康保険課 保健師 山口直美

保健指導実施に関する知識

講師 ライフスタイル医科学研究所長 庄野菜穂子

保健指導の概要

講師 佐賀大学医学部教授 長家智子

食生活に関する保健指導

講師 西九州大学教授 久野一恵

禁煙に関する保健指導

講師 佐賀県総合保健協会医師 甲佐和宏

身体活動・運動に関する保健指導

講師 福岡大学スポーツ科学部教授 桧垣靖樹

アルコールに関する保健指導

講師 佐賀県医療センター好生館 医師 福田 貴博

口腔衛生に関する保健指導

講師 宮原歯科医院 院長 宮原 昭

保健指導の実際

講師 小城市 管理栄養士 中村 京

保健指導を支えるカウンセリング技術の展開

講師 福岡県立大学人間社会学部前学部長・北九州市手をつなぐ育成会理事長 管理栄養士 小松啓子

保健指導の評価

講師 佐賀県国民健康保険課 主任保健師 山口直美

②指導力向上研修コース

【Aコース】

期日：平成29年11月26日（日）

会場：佐賀市文化会館3階大会議室

研修修了者：121名

内容[講師]

糖尿病、糖代謝異常に関する知識

講師 嶋田病院糖尿病内科 内科部長 赤司 朋之 氏

【Bコース】

期日：平成30年1月21日（日）

会場：佐賀県看護協会

研修修了者：132名

内容[講師]

効果のある特定保健指導のすすめ方

—実践事例を通して—

講師 保健活動を考える自主的研究会

保健師 門田しず子

また、研修で育成した特定保健指導業務に従事できる有資格人材を、特定保健指導実施義務を担う市町等の保健指導事業に適切に活用し、特定保健指導を円滑に行うために、特定保健指導を実施する際に活用できる人材を登録し、市町に情報提供しました。

登録人材数：71人（平成29年度末現在）

保健師：23人、管理栄養士：36人、看護師：12人

(3) 対策型胃内視鏡検診運営委員会事業（研修会）（県委託事業）

(内容)

がん検診に関する国の指針の改正（平成28年4月1日施行）に伴い、胃がん検診の方法に胃内視鏡検診が導入されたため、その精度管理のための平成29年度から研修事業を実施しました。

(対象)

医師、看護師、臨床検査技師等

期日：平成29年9月16日（土）

会場：アバンセ研修室

対象：医師、診療放射線技師

参加者：約100人

内容[講師]

①一般演題 2題

②特別講演

「消化器内視鏡 ～新時代の幕開け～」

日本消化器内視鏡学会理事長

東京慈恵医科大学先進内視鏡治療研究講座教授 田尻 久雄

[事業実施形態・財源]

- ・(1) 生活習慣病検診従事者講習会は、佐賀県からの委託料（受取県受託金）を財源としています。
- ・(2) 佐賀保健指導支援ステーション事業は、全体として、佐賀県、県内市町及び当財団で構成する事業運営委員会（会長：佐賀県医師会長）で、研修計画等を決定し、当財団が事務局として事業を推進しています。指導力向上研修については、佐賀県からの委託料（受取県受託金）を、基礎研修コース及び人材登録事業は、市町からの負担金（受取市町負担金）を財源としています。
- ・(3) 対策型胃内視鏡検診運営委員会事業は、市町から委任を受けた佐賀県からの委託事務で、佐賀県からの委託料（受取県受託金）が財源です。

4. がん患者保健支援事業

平成27年9月に佐賀県がん総合支援センターを設置し、がんの患者・家族など、がんに関する悩みをもつ方に対して、不安や悩みの解消、治療・日常生活

活への意欲の増進等を支援するため、面談や電話相談、患者等間の交流事業を実施しました。

個々のがん患者等に対しては、面談や電話相談と交流事業の事業で相乗的な支援ができるよう取り組みました。

(1) がん相談事業（県委託事業）

電話相談業務専任の相談員（週3日の相談日を看護師3名で分担）を配置し、相談専用ダイヤルを設けて、がん患者やその家族をはじめ、がんに関する悩みを持つ県民からの相談に対応しました。

- ・相談開設日：毎週 月・水・金曜日 9時30分～13時00分
14時00分～16時30分
- ・電話番号：0120-246-388（フリーダイヤル）
- ・広報：当財団のホームページ、ポスターの掲示（医療機関等）、検診車ボディへの表示、チラシの配布、新聞広告等
- ・相談件数：121件（H28年度：135件）
- ・面談件数：5件（H28年度：3件）

(2) がん患者交流事業（県委託事業）

がん患者の闘病に伴う患者・家族の心身両面でのさまざまな負担を軽減するため、ピアサポート及び専門家による支援の観点から、レクリエーションや親睦交流会を内容とする交流事業を実施しました。

なお、スタッフとして、臨床心理士、がん相談員、保健師等の医療資格者のほか、県内がん患者団体のリーダー等がピアサポーターとして参画しました。

○がん患者・家族の集い

第1回

日時：平成29年7月3日(月) 13:00～16:00

会場：旧・佐賀県総合保健会館 会議室

参加者：36名

内容：1. レクリエーション

風鈴を作ろう

講師：隈本ヒデ子、他1名

2. グループ別懇談会（3グループ）

グループごとにファシリテーター（臨床心理士、がん相談員、保健師）ピアサポーター（サバイバー）を配置して実施懇談の内容は下記のとおり自己紹介、体験談、治療の現状・悩み、セカンドオピニオン、治療方法、家族からの支え、病気進行への不安、生きがいや趣味等

3. スタッフによる反省会

第2回

日時：平成29年11月18日(土) 13:00～16:00

会場：鹿島市民交流プラザ「かたらい」

参加者：30名

内容：1. レクリエーション

X'masリースづくり

指導：フローリストの尾崎京子先生

2. グループ別懇談会（3グループ）

グループごとにファシリテーター（臨床心理士、がん相談員、保健師）ピアサポーター（サバイバー）を配置して実施懇談の内容は下記のとおり

自己紹介、体験談、治療の現状・悩み、セカンドオピニオン、治療方法、家族からの支え、病気進行への不安、生きがいや趣味等

3. スタッフによる反省会

第3回

日時：平成30年3月12日(月) 13:00～16:00

会場：佐賀県健康づくり財団3階 研修室

参加者：42名

内容：1. レクリエーション

簡単！かわいい！手作り“しおり”

講師：隈本ヒデ子、

2. グループ別懇談会（3グループ）

グループごとにファシリテーター（臨床心理士、がん相談員、保健師）ピアサポーター（サバイバー）を配置して実施懇談の内容は下記のとおり

自己紹介、体験談、治療の現状・悩み、セカンドオピニオン、治療方法、家族からの支え、病気進行への不安、生き

がいや趣味等

3. スタッフによる反省会

○地域型がんサロン

「がん患者・家族集いの会」の地域版事業として、各地域のがん経験者等のボランティアの協力を得て、医療機関やがんの部位に関係なく誰でも参加できる簡易型のがんサロンを開催しました。このサロンでは、がん経験者（ピアサポーター講習修了者）や看護師等のボランティアを中心に、グループ懇談や個別面談を実施しました。

- ・鳥栖がんサロン「たんぽぽの会」（平成28年6月～）

会場：鳥栖社会福祉会館集会室

開催日：隔月（偶数月）の第3木曜日、13時30分～15時

- ・多久がんサロン「ハート」（平成28年6月～）

会場：多久市中央公民館研修室

開催日：毎月第1日曜日、13時30分～15時30分

- ・唐津がんサロン ひまわり（平成29年1月～）

会場：唐津地域総合保健医療センター

開催日：隔月（奇数月）の第1土曜日、13時30分～15時30分

- ・杵島がんサロン すいせん（平成29年5月～）

会場：江北町ネイブル2階学習室

開催日：毎月第1土曜日、13時30分～15時30分

(3) がんピアサポーター養成事業（県委託事業）

(内容)

がん患者やその家族が抱える問題は、治療方法、治療費、生活、就労、病気の進行、再発への不安など、多岐にわたり、医療機関や雇用関係行政機関等の専門的な相談窓口がそれらのニーズに対応する一方、がんの経験者等の経験に基づいた情報を相互に交換し、共通する不安やいろいろな思いを共有する場（ピアサポート）が重要な役割を担っています。

しかし、適切なピアサポートを実施するためには、ピア（「仲間」の意）としての支援技術や知識を身に着けた人材の育成が必要です。このため、新たな人材の確保、及び既に活動するピアサポーターの資質向上を目的に研修を実施しました。

○研修コース

- ① がんピアサポーター養成講座

・期日：平成29年11月12日（日）・19日（日）・12月3日（日）

- ・会場：佐賀県庁会議室、旧・佐賀県総合保健会館 会議室
- ・対象：これからピアサポーターとしての活動を目指す者
- ・修了者：13名
- ・内容
 - 「がん対策における国、佐賀県の政策的支援」
佐賀県健康増進課がん対策係長 古川 修一
 - 「がんと向き合う」
佐賀県医療センター好生館緩和ケア科医師 小杉 寿文
 - 「ピアサポートとは何か。ピアサポートにとって大事なこと。」
日本対がん協会がんサバイバークラブ運営委員会マネージャー
岐阜県特定非営利法人がんサポートセンター副理事長
横山 光恒
 - 「がん診療連携拠点病院・がん相談支援センターについて」
佐賀県医療センター好生館医療ソーシャルワーカー
大石美穂
 - 「がん患者のための治療と職業生活の両立支援について」
佐賀産業保健総合支援センター副所長 北島 祐之
 - 「傾聴とコミュニケーション」（講義・ロールプレイ）
佐賀大学医学部附属病院助教 松島 淳
 - 「がんに関する適正知識：がん治療について」
佐賀県医療センター好生館副館長 佐藤 清治
 - 「重粒子線がん治療について」
佐賀県健康増進課がん対策係長 田中 丈晴
 - 「ピアサポーターとして良いコミュニケーションのために」
佐賀大学医学部附属病院助教 松島 淳

②がんピアサポーター・フォローアップ研修会

- ・期日：平成30年3月21日（水・祝）
- ・会場：佐賀県健康づくり財団3階 研修室
- ・対象：上記①受講者、ピアサポーター活動者
- ・受講者：21名程度
- ・内容
 - 「コミュニケーション技術を磨く」
佐賀大学医学部附属病院助教 松島 淳

〔事業実施形態・財源〕

- ・(1) がん相談事業は、佐賀県からの委託料（受取県受託金）が財源です。
- ・(2) がん患者交流事業は、佐賀県からの委託料（受取県受託金）、健診・検

査事業による収益（健診事業収益・検査事業収益）及び募金収益が財源です。

- ・(3) がんピアサポーター養成事業は、佐賀県からの委託料（受取県委託金）が財源です。

5. 健診事業

(1) 旧総合保健協会事業所実施分（各種健診実施数等は後掲一覧表参照）

県民の保健の向上を図るためには、啓発等によって健康づくりに向けた県民の主体的な取組みを促進するとともに、予防や早期発見のための健康診断を受診しやすい環境を整えることが不可欠であり、このため、当財団では、健診車両の無償貸与等の佐賀県の支援を得ながら、巡回健診をはじめ、受診者の利便に配慮した健診事業を展開しました。

①巡回健診

佐賀県から無償で貸与された検診車（16台）及び財団整備の検診車（4台）により、事業効率が悪い過疎地域や山間部地域、受診者数が少ない学校の巡回などを含めた県下全域で巡回健診を実施しました。

②受診機会の拡大のための事業

健診受診機会の選択肢を広げる観点から、通常のX線撮影装置では撮影が困難な障害者等に対するポータブル撮影や、来所可能な一般の受診者や検診予定日に受診できなかった受診希望者が受診しやすいよう、巡回健診の他に週2回の協会内健診を実施しました。

また、土日祝日の健診や夜間健診のほか、乳がん検診・子宮がん検診などの女性向けの検診については、女性スタッフだけのレディースデーを設けるなど、健診実施者の要請に積極的に対応し、受診しやすい健診環境づくりに取り組みました。

- *土日祝日健診 57日間
- *夜間検診 5日間
- *レディースデー（女性向け検診日） 8日間

(2) 旧成人病予防センター事業所実施分（各種健診・検査実施数等は後掲一覧表参照）

主に施設内健診として、人間ドック、事業所健診、市町健診（佐賀市等毎日健診）、学校検診等を実施しました。又、保健指導や2次検診、精密検査の一環としての保険診療も併せて実施しました。尚、平成30年1月からは新施設に移転し、男女別の健診エリアを整備するなど、受診しやすい環境づくりを通

して受診率の向上に寄与できるよう取り組んでいます。

6. 健診結果フォロー事業

(1) 結果説明会の支援等

市町が行う健診実施後の受診者への結果説明会などに当財団の保健師を派遣し、住民個々の保健への理解促進と健康管理についての指導を行うとともに、要精密検査の対象者には個別の受診勧奨を実施しました。

(平成29年度の実績)

- ・派遣団体数 1市、事業所
- ・派遣回数 4回
- ・実施場所 保健センター等

(2) 特定保健指導事業

特定健康診査後の特定保健指導が必要な対象者に対して、市町等の委託を受け、専門的な保健指導を実施しました。

(平成29年度の実績)

- ・実施団体 太良町、上峰町
- ・実施者数 113人
 - うち動機づけ支援 73人
 - うち積極的支援 40人

〔事業実施形態・財源〕

- ・(1) は、一部（個別指導を内容とする結果説明会）は保健指導事業収益を財源に実施しており、その他は、健診・検査事業収益を財源に実施しています。
- ・(2) は、保健指導事業収益を財源に実施しています。

7. 関係団体への施設貸与事業

当財団が保有する、城内記念ホール（4階）及び研修室（3階）について、当財団の用途に優先使用した上で、県民の健康増進及び疾病の予防に資する団体へ、平成30年3月より施設を貸与しました。（公益財団佐賀県健康づくり財団研修施設使用規程に基づき、使用料を徴収）

貸与回数：9回 徴収金額：133,776円

II 収益事業の概況に関する事項

収益事業として下記の事業を実施しました。

1. 臨床検査事業（各種臨床検査実施数等は後掲一覧表参照）

県内の医療機関の診療支援の一環として、医療機関からの委託による、尿・糞便等検査、血液学的検査、生化学的検査、免疫学的検査、輸血検査、微生物学的検査、病理学的検査等を実施しました。臨床検査の実施に当たっては、検査結果の質を担保するため、各種の外部精度管理調査に参加し、精度管理の向上を通して、医療機関からの信頼を得られるよう取り組んでいます。

また、医療機関からの委託検査は、診療を適切にサポートする上で迅速な検査結果の提供が重要であることから、検体の受領に当たっては、十分な集配体制で対応し、より速やかに検査に取り組みました。尚、検査結果は必要に応じて、電話・FAX 又は、インターネットを活用した臨床検査データ通信システム「Web きゃどらいん」による迅速かつ利便性の高い情報サービスを行っています。